

元気に餌をついばむアイガモのひな。いずれも猪名川町下阿古谷



アイガモ農法により米作りをしている猪名川町下阿古谷の農家で、ひながすくすくと育っている。生後数日しかたっておらず、黄や

黒の羽毛はふわふわ。飼育小屋を駆け回り、餌を食べたり、水を飲んだり愛らしい姿を見せている。JA兵庫六甲猪名川官農

猪名川・アイガモ農法の農家
ひなすくすく育つ
来月、田んぼデビュー



ひなに餌やりをする上殿さん

支援センターの「アイガモ部会」が、2000年から取り組んでいる。アイガモは田んぼの雑草や害虫を食べるほか、水田を泳ぎ回ることによって水がかき回され、雑草が生えるのを防ぐ。さらにふんは肥料にもなり、化学肥料や除草剤を低減できるという。

同部会長の上殿美仁さん(64)の元にはJA事務局から85羽が配られた。上殿さんは「『大きくなれよ』と1羽ずつ声を掛けながら小屋に放したら、手の上から餌を食べてくれるようになった」と目を細めた。アイガモは6月10日ごろに「田んぼデビュー」する。

収穫される米は、同町の「ふるさと納税」の返礼品として活用されるほか、道の駅いながわ(同町万善)などで販売される。

(斎藤雅志)

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

のうほう なに

①アイガモ農法で何をつくっていますか。

よ

②アイガモ農法の良いところをまとめましょう。

た

アアイガモのひなは何を食べますか。

すいでん およ まわ

イアイガモのひなが水田を泳ぎ回ることによっていいことは何ですか。

こうか

ウアイガモのふんにはどんな効果がありますか。

いながわちょう

しゅうかく

こめ

つか

エ猪名川町のアイガモ農法で収穫される米は、どう使われますか。

れきし

しら

オアイガモ農法の歴史について調べてみましょう。